

第5回
かごしま

人

まち

デザイン賞 2017



人はまちを創る。
まちは人を育てる。



知事挨拶



鹿児島県知事

三反園 訓

本県は、南北約 600 キロメートルに及ぶ広大な県土を有し、桜島や錦江湾、奄美の島々などの雄大で美しい自然、知覧・出水等の武家屋敷群に見られる地域固有の歴史や文化、人々の暮らしが織り成す、多彩で豊かな景観が育まれてきました。

このような景観は、私たちの暮らしに潤いや活力を与え、郷土に対する誇りや愛着を育むとともに、訪れる人々に地域の魅力を感じさせ、観光や人々の交流の促進に大きな役割を担っています。

こうしたことから、県では、本県の特徴を生かした美しく風格のある景観をつくり、これを将来の世代に引き継いでいくため、平成 19 年度に制定した「県景観条例」に基づき、「景観形成基本方針」や「景観形成ガイドライン」、「公共事業景観形成基準」を策定するなど、県民の皆様の景観に対する関心と理解を深めていただきながら、行政、県民、事業者が共に力を合わせて、個性豊かで魅力あふれる景観の形成が図られるよう様々な取組を進めているところです。

その一つである「かごしま・人・まち・デザイン賞」は、都市、農山漁村それぞれの特色を生かした、また、空間的な広がりのある本県の個性豊かで良好な景観の形成に、特に貢献された方々への敬意と感謝の意を表し、表彰させていただくものです。

第5回となる今回は、「日本一のガジュマルと共生する地域」や「カトリック名瀬聖心教会」など、景観づくり部門4件、都市デザイン部門4件を表彰いたしました。受賞された皆様から心からお祝い申し上げます。

県といたしましては、今後とも、鹿児島らしい景観の形成に取り組んでまいりますので、県民の皆様の一層の御理解・御協力をお願いします。

終わりに、審査に当たっていただいた委員の方々並びに本賞に御応募いただいた皆様から心から感謝を申し上げます。

委員長総括



審査委員会委員長

国吉 直行

*経歴

1964年鹿児島県立鶴丸高校卒業。1971年早稲田大学建築学科大学院修士課程修了。同年、横浜市役所に入庁、都市デザインチームの設立に参加し、継続して都市デザイン室に所属。40年以上一貫して横浜市の都市デザイン行政に取り組み、現在の個性的な横浜の都市空間を形成してきた。

今回の「景観づくり部門」及び「都市デザイン部門」の両部門の応募景観、作品を見ますと、地域の自然や伝統を再評価し、未来に引き継ごうとする視点から優秀なものが目立ちました。景観づくり部門では、「日本一のガジュマルと共生する地域」など表彰対象に選ばれたもの、惜しくも表彰から外れたものに、このような側面からの意欲的な市民活動が多く見受けられました。また、都市デザイン部門においても、地区の歴史的資産の再生の成果（リノベーション）である「カトリック名瀬聖心教会」をはじめ、「塩や」、「本坊酒造(株)津貫蒸留所・寶常」など、地域の景観資産の活用成果となっています。中でも、かつての商家の保全活用作品である「塩や」は、失われた町の歴史の継承復元を目指す市民や大学の活動の成果であり、地域での展開に期待を持ちました。

応募景観や作品、2次選考の現地視察などを通じて、鹿児島県下各地域の魅力を再発見し、地域のアイデンティティとして育もうとする様々な市民活動が活発になってきていることを認識できたことが最も大きな成果となりました。委員会視察とは別に視察訪問した、各地の麓集落などでの保全市民活動などからもこのことを感じました。

一方、都市デザイン部門においては、個別の建築や小さな施設単独の応募にとどまっているものが大半であり、道路や建築物群などを複合した地区の街並みづくりの成果、または、こういった試みにつなげる地区の都市デザイン展開の一環としての個別作品がほとんどなかったということが課題と考えます。

今後の本表彰制度の運用には、県独自の景観づくり、都市デザイン活動の展開意図を明確にして展開を図ることも大切と感じます。また、そのために、海外・国内都市などの取組施策の研究や、県下の市民団体や設計団体などと連携した研究活動も大切だと思います。

審査委員

- 石田尾 博 夫 ▶ 第一工業大学 名誉教授
- 梶 原 知 治 ▶ 鹿児島建築まちなみ研究所 所長
- 木 方 十 根 ▶ 鹿児島大学大学院 教授
- 国 吉 直 行 ▶ 横浜市立大学 特別契約教授
- 田 中 尚 人 ▶ 熊本大学 准教授
- 友 清 貴 和 ▶ 鹿児島大学 名誉教授
- 浜 本 奈 鼓 ▶ NPO 法人くすの木自然館 代表理事
- 東 川 美 和 ▶ NPO 法人まちづくり地域フォーラム・かごしま探検の会 事務局長 (五十音順、敬称略)

受賞位置図(景観づくり部門)

大賞



①日本一のカジマルと共生する地域(和泊町)

優秀賞



②フクギ並木などの景観を生かした地域づくり(大和村)

優秀賞

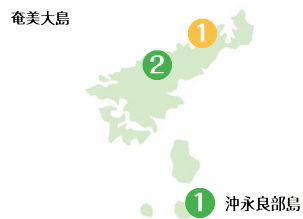


③坊津八景の伝承活動(南さつま市)

奨励賞



④丸池湧水の保全活動(湧水町)



大賞



①カトリック名瀬聖心教会(奄美市)

優秀賞



②塩や、(南九州市)

優秀賞



③咲耶島(鹿児島市)

奨励賞



④本坊酒造(株)津貫蒸留所・寶常(南さつま市)

受賞位置図(都市デザイン部門)



「日本一のガジュマルと 共生する地域」



所在地

大島郡和泊町国頭

活動団体

和泊町立国頭小学校

概要

明治31年に第1期卒業生が植樹したガジュマルの木は、太平洋戦争の空襲や多くの台風を乗り越え、悠然と存在している。

この木の下には日々、地域住民、観光客などが集まり、生徒だけでなく、みんなの憩いの場となっている。この木の存在もあって、和泊町は昭和55年にガジュマルの木を町木に指定した。

地域の学校に植えた一本の木が、地域の粋を超え、町全体の誇り、シンボルとなるのは他に例はなく、小学校や保護者達をはじめとする地域が、この木を大切に守ってきた成果といえる。

講評

第1期卒業生から受け継がれた学校の財産が地域の人々にも守られ、地域の大きな財産になっている。幹回り6m、枝張り22mの日本一と言われるこの巨木は、実に壮観な景観を創出している。一本の木を地域のシンボルとして守り続けていることは素晴らしい、全国的にも誇るべきであり、高く評価できる。

また、多くの人にこの木を知ってもらおうと、木から苗を作り、島外の人に配布している点も特筆に値する。

